

大田市は芸術文化の町

市内を中心に芸術分野で活躍する方々を紹介します

東京上野で夢の舞台

『オペラ石見銀山』

昨年10月31日、東京都上野にある東京文化会館において、「オペラ石見銀山」が上演されました。大田市からも大屋神楽社中や合唱団が舞台に立ち、約2千人の観客を魅了しました。

「オペラ石見銀山」とは

平成29年、石見銀山遺跡の世界遺産登録10周年を記念し、地元有志による実行委員会に、観光大使である「オペラユニットザ・レジェンド」らが協力し、制作・上演された創作オペラです。

石見銀山の歴史を題材にしたストーリーに、石見神楽が融合されたオペラは話題となり、大田市民会館、その後の東京新国立劇場での公演は、いずれも満席。大喝采と感動のうちに、初演の幕を閉じました。

再スタート

一度は眠りについたオペラでしたが、昨年5月「石見神楽」が日本遺産に認定されたことを機に、急遽再演が決定。合唱団では、前回出演した子どもは成長しており、新メンバーを入れたがらの再スタートでした。

そして、「初演を超える舞台に！」を合言葉に、猛練習を重ね、東京へ向かったのです。

夢の舞台で

地元メンバーは、はるか5階まで客席のつづく大ホールに気後れしうになりながらも、夢の舞台へ。ソリスト、オーケストラ、神楽の囃子、溢れかえる音楽の渦に包まれ、最後は客席からの大拍手。最高のステージを作り上げた達成感と安堵感とともに、笑顔と涙で、本番を終えました。

夢の先の夢に向かって

地方発のオペラが東京の舞台上で演じられるのは、極めてまれなこと。これを可能にしたのは、大田市に「石見銀山」と「石見神楽」という誇れる宝があり、そして、夢を形にしようと懸命に支えた人たちがいたから。

今回の舞台は幕を閉じましたが、15周年には再々演し、やがては海外でも、と、夢は膨らむばかりです。みなさん、大田市民になって、夢の舞台に立ちませんか!?

※本年6月7日(日)、大田市民会館にて、全国植樹祭を記念し、ソリスト・ピアニストによるコンサートが開催されます。

大森町在住 世界的音楽家

破魔澄子さん

トーマ・プレヴオさんご夫妻

破魔(はま)澄子(すみこ)さんとトーマ・プレヴオさんご夫妻は、2008年から大田市大森町に住居を構えておられます。破魔さんは、元フランス国立管弦楽団の第1ヴァイオリン奏者、ヨーロッパのメジャーオーケストラ初の外国人奏者であり、アジア人女性音楽家として、欧米楽団のパイオニア的存在です。トーマさんは、元フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者であり、世界トップクラスのフルート奏者の一人です。

ご夫妻が、大森町に住居を構える



世界的ヴァイオリニスト 破魔澄子さん



世界トップクラスのフルート奏者 トーマ・プレヴオさん

ことになったきっかけは、トーマさんが日本の古民家や古い町並みに興味があり、友人の紹介で大森町を訪れたこと。街並みを気に入り、すぐにここに住みたいと決意。石見銀山生活文化研究所の松場会長とご縁があり現在の住まいを紹介されました。昨年までは、トーマさんがオーケストラに所属されていたため休暇の際に大森町に滞在するだけでしたが、オーケストラを退団されたことにより2019年4月より一年の半分程度を大森町で過ごされています。



ご夫妻は、音楽で地域に貢献したいという熱い思いをもっており、石見銀山国際音楽アカデミーという取り組みを行っています。これは、破魔さん、トーマさんをはじめ、世界の一流音楽家たちが大森町に集まり日本各地の音楽を志す大学生や若手音楽家、音楽教室の先生などを指導するもので、2015年夏に誕生。全国から約20名の生徒が集まり1週間泊り込みでレッスンを受けることが出来ます。ヨーロッパに渡航せずに一流音楽家の指導が受けられると受講生からは大変好評で、年々、受講生も増えてきています。

また、地域の子どもたちにも一流の音楽に触れて欲しいとも考えておられ、レッスンや練習の際には、気兼ねなく訪れて欲しいと語っています。



ロビーで披露した子ども神楽も大好評



舞台袖にはオペラやバレエの公演ポスターや出演者のサインの数々



村人が神楽を楽しむ象徴的な「第三幕MATSURI」の場面



子どもたちが出演記念にサイン



5階席から見下ろすステージ



本番直後の集合写真
苦楽も旅も共にしてみんな仲間